

令和4年度 県立霞ヶ浦聾学校(特別支援学校)自己評価表

| 目指す学校像 ◆豊かなコミュニケーション力と確かな日本語を育てる学校 ◆安全で安心な学校 ◆保護者や地域とともに歩む学校 | | | |
|--|----------------------------------|---|------|
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを作成し、全職員で新型コロナウイルス感染症対策に取り組むことができた。 ・定期的に初期動作訓練や避難訓練を実施したことで、子どもたちが災害について少しずつ理解し、素早く行動できるよう指導することができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時を想定した訓練の事前学習や事後学習を継続的に実施し、充実を図る必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じた体験的な活動やICTを活用した疑似的体験などを行い、実践力の育成が必要である。 | 安全で安心な学校生活と心身共に健康な子どもの育成 | <p>①安心安全な教育環境の整備 【危機管理】</p> <p>②自ら健康・安全に生活する力の向上 【自己管理能力の育成】</p> <p>③信頼し絆を深める人間関係づくりの推進 【豊かな心の育成】</p> | A |
| <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業や幼児児童生徒との関りを積極的にとる中で、適切な言葉遣いを意識させながらコミュニケーション力の向上につなげることができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚活用指導の指導力の向上に努める必要がある。 ・聴覚障害や障害認識について系統的に学ぶ機会を設定する必要がある。 | 聴覚活用指導とコミュニケーション力の伸長による確かな日本語の育成 | <p>④個に応じたコミュニケーション手段の活用の推進 【伝え合い分かり合う喜び】</p> <p>⑤日本語による「読み」「書き」能力の向上 【確かな日本語の習得】</p> <p>⑥情報を正しく理解し、適切に表現する力の育成 【豊かな表現力の育成】</p> | B |
| <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づきを大切にしながら、基礎・基本的内容を繰り返し継続したことで学びの意欲を促しながら指導することができた。 ・学習場面に応じてICTを活用したことで、わかりやすい授業を展開することができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聾教育の専門性の向上と教科指導の専門性の向上を図る必要がある。 | 基礎・基本の定着と確かな学力の向上 | <p>⑦主体的・対話的な学びを目指した授業づくりと学習評価の工夫 【学び合う学習】</p> <p>⑧学習場面に応じた効果的なICT活用の推進 【ICT活用】</p> <p>⑨教育活動全体を通じたキャリア教育の推進 【一人一人のキャリア発達】</p> | B |
| <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ブログを継続して開設したことで、学校の取り組みを発信することができた。 ・地域資源を活用した職場体験を実施することで、経験を広めることができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症に対応した学校間交流の実施方法の工夫を検討する。 ・外部機関を活用した体験的な学習の充実を図る必要がある。 | 地域とともにある学校と専門性を生かした地域の特別支援教育の充実 | <p>⑩早期教育相談、通級指導教室の充実 【聴覚障害教育の保障】</p> <p>⑪小・中学校に在籍する聴覚障害児や担当教員への支援 【専門性を生かした支援】</p> <p>⑫経験を広め社会性を養う交流及び共同学習の充実 【地域との連携】</p> | A |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 重点目標との関連 | 評価 | 成果、課題及び次年度への改善策 ○成果 ●課題 ◇改善策 |
|-------|--|---|-------------|----|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 言葉適切に表現する力や伝え合う力を身に付け、言語感覚を養う。 言葉に対する興味・関心をもち、読み書きの力の伸長を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で視覚的教材を活用したり、個に応じた言葉の世界を広げ、読む力や書く力を付けたりすることで、考えや気持ちを適切に表現し伝え合うことができるようにする。 学期ごとに各種検定試験を実施・選奨したりして、日本語による読み書き能力の向上を図る。 | ②③④⑤ ⑥⑦⑧ | B | <ul style="list-style-type: none"> 話し合いのポイントを可視化し、考えや気持ちを伝え合うことができた。 ●言葉の補完・拡充(特に発音)のために時間を多く使い、学習を進める必要がある。 ◇言葉を育てるための支援の工夫を継続して行っていく。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 社会に対する関心を高め、社会的なものの方見方・考え方を身に付けることができるようにする。 社会的事象の特色や意味を考え、社会への関わり方を選択したり、判断したりすることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象(位置や空間の広がり、時期や時間の経過、地域や生活の特色等)を関連付けて考えることができるように、ICT機器、視覚的教材や地図、年表等の資料を積極的に活用する。 校外学習、宿泊学習、社会科見学等の体験学習を通し、自分で課題を設定することや周囲と意見を出し合いながら課題を追求できるように事前事後指導を計画的に行う。 | ④⑤⑥⑦ ⑧ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行等の体験学習を通し、その地域の学習や社会的事象を関連付けて学習することができた。デジタル教科書やタブレットなどのICT機器を使用し、理解を深めることができた。 ●見方・考え方を養うためにも体験的な学習を充実させる必要がある。 ◇ICT機器を利用した授業方法を小中学部で情報交換し、授業改善を行っていく。 |
| 算数・数学 | <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形についての基礎的知識・技能を身に付け、それらを生活や学習等の様々な場面で活用することができる能力や態度を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 作業的・体験的活動及び、具体物を用いた活動を多く取り入れることで、主体性を高め、知識として活用できるようにする。 発展的・応用的に考えたことなどを表現し、伝え合う・学び合う・高め合うなどの学習活動を積極的に取り入れるようにする。 ICT機器や視覚的教材を授業の中に取り入れることで、主体的・対話的深い学びを促すことができるような環境を整えることにより、数学的な見方・考え方を生活の中で生かすことができるようにする。 | ①④⑤⑥ ⑧ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教科書や本校にあるICT機器、アナログ的な具体物等を組み合わせた授業を展開し、児童生徒が自分で考える習慣を身に付けるような工夫をすることができた。 ●発展的、応用的な問題に関して、児童生徒数が少なかったこともあり、伝え合う活動をするのが難しかった。 ◇学習活動の内容を工夫していくとともに、算数数学の教材についても整理を行っていく。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、科学的事象について既習事項をもとに予想や仮説を立て、目的意識をもって観察・実験を行い、科学的に考える能力や態度を育てる。 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、日常生活や社会と関連した活用や論理的な思考力の基盤を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が習得した既存の概念(誤った概念等も含めて)を把握し、科学的な事実や原理などの理解にたどり着くための具体的な体験やICTなどの視覚的資料を効果的に活用し、基礎的・基本的な科学的知識・技能の定着を図る。 学習の定着度や理解度を把握するために単元・節ごとに練習問題を取り入れ、基礎となる学力の定着を図る。 | ①②③④ ⑤⑥ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教科書やタブレットなどのICT機器を使うなどして、理解を深める授業を展開することができた。 ●論理的な思考力の育成のため、教師の発問の工夫や話し合う場面を設定する必要がある。 ◇電子黒板等のICT機器の整備を進め、活用しながら科学的に物事を考える力を育てていく。 |
| 生活 | <ul style="list-style-type: none"> 自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や良さ、それらの関わり等に気付き、それらに自ら働きかけながら、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験を取り入れ、人や自然と関わる楽しさが分かる学習を行う。 観察日記等を使って見付けたり、比べたり、質問したりするなどの多様な学習を取り入れるようにする。 | ①②③④ ⑤⑥ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○社会見学やポニー体験、校庭に出での調べ学習などを取り入れ、自ら関わろうとする意欲を高めることができた。 ●より地域の資源を活用していく必要がある。 ◇意欲的に取り組むことができるようにICT機器も活用していく。 |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 器楽等の音楽活動を通して、系統的に基礎的な演奏技能を身に付け、音楽活動の楽しさを味わうことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 視覚的教材やICT機器等を活用したり、様々な楽器に触れる題材を幅広く取り扱ったりすることで、児童生徒が、音楽を楽しみながら自ら取り組むことができるようにする。 | ③④⑤⑦ ⑧ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○視覚的な教材やタブレット等のICT機器を活用し、器楽やリズム活動など、意欲的に取り組むことができた。 ●演奏したいという気持ちが高まるような教材を工夫する必要がある。 ◇様々な楽器の音色を演奏しながら、音楽活動の楽しさを感じるようにしていく。 |

| | | | | | |
|----------------------|---|--|--------------------|----------|--|
| <p>図工・美術</p> | <p>・表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育てる。 ・造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育てる。</p> | <p>・教科書に載っている作品や友達の作品を見て感じたことや自分が表現したい形や色、感触等に関するイメージについて言葉でやりとりしたり、様々な表現技法を経験したりする機会を設ける。 ・鑑賞の際、言語活動を通して、友達や教員の作品の捉え方を聞き、作品の見方や感じ方を深めたり、作った作品を飾る活動を通して、創作の意味や美術文化への理解を深めたりする機会をもつ。</p> | <p>④⑤⑥⑦ ⑧</p> | <p>B</p> | <p>○デッサン等の造形的なものの見方、捉え方ができるような題材を選ぶことができた。作品にコメントを付け読み合うことで、鑑賞の時間を確保した。 ●創作の意味や美術文化への理解を深める機会を設ける必要がある。 ◇名画等を展示し、豊かな表現力を育てるようにする。</p> |
| <p>家庭技術 職業家庭</p> | <p>・生活をよりよくするための能力や態度を育てる。 ・安全に注意し、技術や家庭の各分野に関する実習の楽しさを味わう。</p> | <p>・技術・家庭の基礎・基本的事項について理解を深めることにより、生活の自立に必要な衣食住、そして木材、電気、生物育成、情報の各分野における知識を身に付け活用できるようにする。特に、家庭分野の「食」に関しては栄養教諭との連携を図っていく。 ・児童生徒が安全かつ楽しく実習に取り組めるよう、ICT機器や視覚教材を活用する機会を増やし、主体的かつ対話的な学びにつなげていく。</p> | <p>②④⑥⑧ ⑨</p> | <p>B</p> | <p>○デジタル教科書や学校にある身近な具体物を有効に活用し、イメージを膨らませ、生徒自身がICTを積極的に活用して、授業を進めることができた。 ●安全や感染症対策を行いながら、実習の計画を立てる必要がある。 ◇生活の中で学習したことが般化できるように教材を工夫していく。</p> |
| <p>保健体育</p> | <p>・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、体力を高める。 ・健康・安全に注意し、運動の楽しさや喜びを味わい、豊かな生活を営む態度を育てる。</p> | <p>・運動の経験を増やせるよう、多様な運動種目を設定し、個々の能力に応じた技能習得のため段階的な指導を行う。また、発達段階や能力に応じ活動や教材・教具、学習カードを工夫したりすることで自ら目標を決めて努力する態度を養うとともに、技能向上のための思考力を育んだりする。(体育領域)</p> | <p>②③⑥⑦ ⑧⑨</p> | <p>B</p> | <p>○多様な運動種目を設定し、個に応じた技能習得、体力向上のために段階的な指導を行うことができた。 ○視覚的に理解しやすい学習カード、タブレット等のICTを活用し、動きの確認や意識化を図ることができた。 ●さらに基礎体力の向上を図る必要がある。 ◇授業、スポーツタイムや部活動等の時間でも、運動量を確保し、効果的に行えるようにする。 ○養護教諭と連携を図り、計画的に保健の授業を進めることができた。 ●健康な生活、病気の予防等について、自主的に気付いて行えるよう支援が必要である。 ◇取り組む健康課題を明確にしていく。</p> |
| | | <p>・個々の発達段階に応じ適切な指導を行い、身近な健康に関する事項を理解し、改善するための方法を考えたり、実践したりする中で、自己の健康を管理する資質や能力を育てるとともに、心と体の調和のとれた成長を促す。(保健領域)</p> | <p>②③⑥⑦ ⑧⑨</p> | <p>B</p> | |
| <p>外国語</p> | <p>・児童生徒の異文化に対する理解を深めたり、英語を使って表現する力を育てたりする。</p> | <p>・ALTの活用や、簡単な英語を用いて気持ちや考えを伝え合ったり、書いたりする活動を取り入れることで、児童生徒の異文化に対する理解を図ったり、積極的なコミュニケーションの態度を育てたりする。</p> | <p>①②③④ ⑤⑥</p> | <p>B</p> | <p>○コミュニケーション活動やアクティビティを積極的に取り入れて、興味関心を高めることができた。また、ALTも授業で活用することができた。 ●児童生徒のコミュニケーション能力を高めることができるように、ALTの活用を検討する必要がある。 ◇英語での表現方法を例示し、英語の表現力を育てていく。</p> |
| <p>総合的な学習の時間</p> | <p>・児童生徒が自ら課題を見つけ、問題を解決する資質能力や、主体的に取り組む態度を育成する。</p> | <p>・児童生徒の興味・関心、生活に基づく課題や、地域や学校の特徴に応じた課題などを解決できるよう支援するとともに、教科の枠を超えた横断的な学習活動を行う。</p> | <p>②④⑤⑥</p> | <p>B</p> | <p>○学校行事に関連することや、児童生徒の身近な話題を課題として設定したことで、主体的に学習に取り組むことができた。 ●児童生徒が、自ら課題を見つけることができるよう、生活と関連づけて考える教材を工夫する必要がある。 ◇タブレットの活用の機会を増やしたり、活用方法を検討したりし、主体的に取り組めるようにしていく。</p> |

| | | | | | |
|---------------------|--|---|----------------------------|----------|--|
| <p>特別の教科 道徳</p> | <p>・道徳的な心情や道徳的判断力、実践意欲と態度などを育てる。</p> | <p>・学習指導要録に示された内容から各学部、学年の実態や課題に応じた内容を精選し、教材を工夫したり、日々の家庭及び学校生活、学校行事など関連付けたりする。 ・話し合い活動など問題解決的な学習や体験的な活動を通して、児童生徒の道徳的資質を育成する。</p> | <p>④⑤⑥⑨</p> | <p>B</p> | <p>○内容を精選し、テーマに沿って児童生徒同士で意見を伝え合うことで道徳的な心情を育むことができた。 ●生活の中で道徳的な行動が見られたときに、他学部や他学年に共有することが必要である。 ◇友達の良いところを見つけて共有する環境を設定する。</p> |
| <p>教務</p> | <p>企画</p> <p>・学部や分掌が組織的・合理的な運営を行うことができる体制を構築する。</p> | <p>・学部間の連携を図りながら、働き方改革の視点から、行事の実施内容や方法の工夫等に取り組む。</p> | <p>①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨</p> | <p>B</p> | <p>○カリキュラムマネジメント推進委員会を常設、定期開催したことで、学部、分掌、教科の取組についての進捗状況や今後の行事予定、分掌組織、教育課程などについて検討することができた。 ●カリキュラムマネジメント推進委員会などを通して、学部、分掌、教科の改善点を活かし、より能率的、合理的に運営できる場所を探っていく必要がある。 ◇引き続き、働き方改革の視点から学校全体が、効率的な運営ができるようにしていく。</p> |
| | <p>庶務 渉外</p> <p>・PTA活動に関して保護者に向けた情報発信を行う。 ・年間の作成スケジュールをもとに、円滑な諸帳簿の作成ができるようにする。</p> | <p>・広報紙等でPTA活動に関する情報を発信する。 ・諸帳簿の年間作成スケジュールを提示し、見直しをもって作成と提出が行えるようにする。</p> | <p>①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨</p> | <p>B</p> | <p>○年2回の広報誌の発行や展示会等の通知等を通して、学校活動の情報を保護者に発信することができた。また、PTA研修会を行い、進路についての情報を伝えることができた。 ●研修会の内容について、今後どのようにしていくのかを検討する必要がある。 ○帳簿の年間の作成スケジュールを提示し、見直しをもって作成と提出ができた。 ●会計簿記入例の提示例を見やすくする工夫が必要である。 ◇年間スケジュールと記入例の整理をしていく。</p> |
| | <p>教科書 図書</p> <p>・実態・実情に合わせた教科書選定を行う。 ・図書室の活用を図り、読書活動を推進する。</p> | <p>・担当や教科担当教員、協議会委員と意見を交換し、より良い教科書選定を進める。 ・図書だよりや図書ニュースによる図書の紹介、子どもの興味や関心に応じた図書の購入、教科学習に関連のある図書の展示、お話し会やブックトークの機会を設定することで、幼児児童生徒の年齢や実態に合った本に触れる機会を増やすようにする。</p> | <p>①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨</p> | <p>B</p> | <p>○児童生徒の実態に合った教科書を選定することができた。提出期限に合わせて、計画的に会議を設定することができた。 ●提出書類は間違いが無いよう、関係職員で確認する必要がある。 ◇期限内に余裕をもって書類を作成し、複数でチェックできるようにする。 ○学期毎の図書だよりの発行、子どもの興味関心に応じた図書の購入、お話し会を設定し、幼児児童生徒の実態に合う本に触れる機会を増やすことができた。 ●図書ニュースの掲示、ブックトークの実施を充実させる必要がある。 ◇校内の行事等に合わせて年間の計画を立てていく。</p> |

| | | | | | | |
|------|---------|--|---|---|---|--|
| | 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒及び保護者の進路に対する意識を高めるとともに、発達段階に応じた進路指導の推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する適切な情報を提供し、キャリア教育に関する体験活動等を行う。また、キャリア教育計画表について、見直しを行う。 ・「キャリア・パスポート」を計画的に活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習など、体験的な活動を実施したり、他学部見学や体験を必要に応じて行ったりすることができた。 ○年度初めに、キャリアパスポートについて、各学部・学年で目標を立てることができた。 ●進路指導係で共通理解を図る必要がある。 ◇キャリアパスポートの活用についての確認を行っていく。 |
| 情報 | 情報管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の経年劣化等に伴う入れ替えなどを計画的に進めるとともに、保有する機器の管理を行いつつ、最大限に活用できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体のパソコン、周辺機器、ICT機器の活用等、総合的かつ中長期的に見通した計画を立て、有効に活用できるように保守管理及び整備を進める。その際には、校務分掌の各関係部または係、事務との連携を図りながら進める。 ・保有している(既存)機器を校内で有効かつ効率的に活用できるように、管理場所の集約を行う。また、新規導入された機器の使用整備を進め、積極的に活用できるようにする。 | ①⑧ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○学校のサーバー、視聴覚室内のPCを事務と連携を図りながら、更新することができた。また、長寿命化工事の関連もあり、視聴覚室内のレイアウトを変更するなど、新しい取り組みをすることができた。 ●◇教室用のPCの入れ替え(Windows10のサポート終了)等、引き続き事務と連携をとりながらどのようにして更新を進めるかを引き続き検討していく。 |
| | ICTメディア | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の管理場所の集約を行い、管理を部全員で行い、管理のスキルアップに努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の管理を含めた取り扱いの研修を行うなど、積極的に学校全体での活用を推進する。 | ①⑧ | B | |
| 指導研究 | 自立活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・聾学校教員としての専門性、自立活動や教科指導に対する指導力の向上を推進できるよう、研修を企画・運営する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内オンラインによる全体研修を計画し、聾教育の基本について再確認できるようにする。 ・各学部の研修などを企画・運営し、職員の聴覚障害教育への理解を深め、指導力を高めたり、専門性を継承・共有したりできるようにする。研修の進捗状況について、情報交換をする場を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ④⑤⑥⑦ ⑧ | B | <ul style="list-style-type: none"> ○聾教育の基本についての研修を計画的に行うことができた。 ●自立活動の指導内容の整理が必要である。 ◇各部で研修したことを全学部で情報共有していく。 ○チェックシートを活用して補聴機器の管理を行い、補聴器業者による一斉点検にて異常を発見、早期に対応することができた。 ●使用しているチェックシートが、機器によって活用しづらいことがあった。 ◇補聴機器に合わせてチェックシートの内容を変更できるように、検討を行っていく。 |
| | 研究研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・関東地区聾教育研究会に向けて、定期的に話し合いをもち、計画的に進めていく。 ・中長期的な視点に基づき、集団補聴システムや聴力測定機器の検討を行い、幼児児童生徒の聴覚管理に積極的に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内の集団補聴システムや幼児児童生徒の聴覚活用の実態、聾学校として必要なこと等を検討し、数年間を見通したよりよい環境を整えるための検討・計画を行う。 ・補聴機器の点検を定期的に行い、幼児児童生徒の聴覚を活用する態度を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ④⑤⑥⑦ ⑧ | B | |

| | | | | | | | |
|------|------|--|---|------------|---|---|--|
| 生徒支援 | 生活支援 | <ul style="list-style-type: none"> 各学部・校務分掌との連携を密にし、支援が必要な幼児児童生徒に関する情報を早期に把握できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて臨時の生徒支援部会さらにケース会議を開き、組織的に問題行動の早期発見、早期解決に取り組めるようにする。また、スマートフォンやSNSの安全な使用方法について、児童生徒、保護者への周知及び指導を行い、未然に問題を防止できるようにする。 | ②⑥⑦⑨ ⑫ | B | B | <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会を月に一度実施することができた。 緊急捜索カードの取り扱い方を考え、紙媒体ではなくデータ中心のものに変更した。 スマートフォンやゲームなどのインターネット機器の使用については、定期的に指導を行っていく必要がある。 情報機器の安全な使用方法を身に付けるため、携帯電話安全教室を計画していく。 |
| | 通学支援 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が安全に登下校できるように支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> バス会社と連携して安全なバス通学を支援するとともに、自力通学を通して児童生徒の自主性を育む。 | ②⑥⑦⑨ ⑫ | B | | <ul style="list-style-type: none"> バス会社との連携や定期的な自力通学生の登校観察を行い、安全な通学を支援することができた。 児童生徒の置き去りの防止や安全な乗降のため、運転手や添乗員から問題点の聞き取りを行い、常に見直しや改善を行っていく必要がある。 安全な登下校について、他教科と連携して指導していく。 |
| 保健安全 | 保健食育 | <ul style="list-style-type: none"> 心身共に健康な子どもの育成のために、保健指導や食育指導の充実を図り、自ら健康に生活する力の向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた感染症予防や衛生検査、生活習慣チェックのもとに保健教育を行う。また、毎日の給食を「生きた教材」として活用し、多様な食品を味わう経験をさせ、各教科との関連を図りながら、発達段階に応じた効果的な食に関する指導を行う。指導後の取り組みについて、振り返りやアンケートなど自己評価をする活動を取り入れ、自らの健康を意識できるようにする。 | ①② | A | A | <ul style="list-style-type: none"> 保健教育では、児童生徒による健康状態チェックや衛生検査、手洗い指導後に振り返りのアンケートを実施したことで、児童生徒自身が自分の健康に関心をもつことができた。食に関する指導では、事前、事後のアンケートや振り返りなどを行い、知識の定着の確認や子どもたちが自らの食生活を意識できるようになってきた。 幼稚部への定期的な生活習慣チェックや食育を計画的に進めていく準備をする必要がある。 幼児の健康に関する生活習慣への保護者の意識向上や、食に関する指導を校内で計画的に行うための取り組みについての検討をしていく。 |
| | 防災環境 | <ul style="list-style-type: none"> 安心安全な教育環境の整備をし、実践的な避難訓練を行い、自ら安全に生活する力の向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々なケースを考えた訓練を想定し、避難の仕方を考え確認していく。教材や掲示物を効果的に活用できるように準備をし、幼児児童生徒が、安全を意識して生活できるようにしていく。 | ①② | A | | <ul style="list-style-type: none"> 避難行動を視覚化した共有教材を作成したり、児童生徒には、避難訓練後に自分の行動を振り返るシートを記入したりすることができた。 避難訓練を軸に、学校外での般化や正しく情報を得る方法についての指導が必要である。 避難訓練の事前・事後学習において、学校以外の場所での災害に対して、避難行動や情報収集手段を考える機会を設けるようにする。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 個々の実態に応じて聴覚活用を促し、コミュニケーション力を育て、幼児の生活に必要なことばの習得を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校生活すべての時間で、体験活動や絵日記等を基にしたやり取りを通して、ことばの習得を促す。 | ④⑤⑥⑦ ⑧⑨ | B | | <ul style="list-style-type: none"> 様々な体験活動を通してことばの習得につなげることができた。 幼児一人一人の言語発達段階を教員間で共有し、指導内容や支援方法を話し合いながら保育に取り組んでいく必要がある。 子ども同士のやりとりの際に相手に応じたコミュニケーション力を育て、活発になるよう支援していく。 |

| | | | | | | |
|-----|--|--|-------------------|---|---|---|
| 幼稚園 | <p>・幼児が主体的に活動できる環境や人との関わりを通して豊かな心を育む。</p> | <p>・幼児が興味・関心をもって自ら活動できるような教材や場面の設定を工夫する。また、人との関わりがもてるよう学級活動、合同保育環境を工夫する。</p> | <p>④⑥⑦⑧ ⑨</p> | B | B | <p>○年間を通して言語発達段階に応じた縦割りグループの保育活動ができた。</p> <p>●幼児一人一人が興味・関心をもって自ら活動できるような教材や場面をさらに模索する必要がある。</p> <p>◇模索した内容を保育で活かし、活動後、改善点等について話し合いを深めていく。</p> |
| | <p>・保護者に対して、幼児の発達や障害理解(受容)への支援をし、望ましい親子関係を築いていけるようにする。</p> | <p>・保護者と連携し、幼児に対する共通の課題や発達段階などについて共に考え、具体的な場面を通して支援する。</p> | <p>③④⑤⑧ ⑨</p> | B | | <p>○保護者学習会や個別学習を計画的に進めることができた。</p> <p>●保護者学習会を受けて保護者がどんなことを感じたのか、担任等が聞き取り、今後の連携や保育に生かす必要がある。</p> <p>◇保護者から聞き取る時間を設ける。</p> |
| 小学部 | <p>・個に応じたコミュニケーション手段を活用し、発達段階に応じたことばの習得を図る。</p> | <p>・生活や学習場面の中で、活動内容を工夫したり、係等の役割を設定したりすることで、友達同士の対話の機会を増やすとともに、伝え方を確認していく。また、どうすれば相手に伝わるか考える場面を設け、伝わる・分かる経験を増やしていく。</p> | <p>②③④⑤ ⑥</p> | B | B | <p>○上級生と下級生のコミュニケーションをとる機会を増やしたり、友達の伝え方や自分の伝え方をビデオで振り返る場面を設けたりすることで、ことばの習得や伝え方の工夫につなげることができた。</p> <p>●さらに友達同士の対話を充実させる必要がある。</p> <p>◇聞く姿勢、伝える姿勢を確認し、対話につなげていく。</p> |
| | <p>・個に応じた学習を進め、基礎学力の定着を図る。</p> | <p>・個別の指導計画に基づいて、主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践や視覚的教材の活用を通して、知識・理解を深めることができるよう支援する。</p> | <p>④⑤⑥⑦ ⑧</p> | B | | <p>○学部研修において、教材、ワークシート、発問について検討し、それぞれの授業に生かすことで、学習内容の理解につなげることができた。</p> <p>●より実態を踏まえた授業づくりを進めていく必要がある。</p> <p>◇実態把握及び実態をふまえた教材・発問方法について検討していく。</p> |
| | <p>・学校生活を基盤とした生活体験や社会体験を豊かにするとともに、友達との関係を大切にしたい主体的な行動ができるようにする。</p> | <p>・学習場面や児童会活動、行事等において、友達とともに協働し、努力したり、話し合ったり、喜びを共有したりできる場面を設定し、信頼関係や安心感、自信、自主性につなげるようにする。</p> | <p>⑨⑫</p> | B | | <p>○遠足、運動会、委員会、わくわくタイム、クラブ活動、持久走記録会等において、他学年の友達と関わったり、話し合ったりすることで、協力・協働すること、努力することの良さを感じながら、主体的に活動することができた。</p> <p>●各学年の人数が少ないという状況があり、集団づくりに工夫が必要である。</p> <p>◇学部全体や複数学年合同グループ、縦割りグループ等の集団を作り工夫ながら、豊かな体験、経験につながるよう、引き続き、行事や場面を設定する。</p> |
| | <p>・生徒一人一人の発達段階や障害の状態、保護者の希望等を踏まえて、指導内容、方法を工夫改善し、分かる楽しさ・知る喜びが感じられる授業づくりに努め、基礎基本の定着と確かな学力の向上を目指す。</p> | <p>・教科学習の充実を図るために、各教科で話し合い活動を計画的に取り入れ、伝えあう・分かり合う授業に努める。自ら学ぶ方法身に付けられるように、生徒の努力を認め、励まし、勉強方法や学習計画の立て方について支援しながら家庭学習の習慣化を図る。</p> | <p>②③④⑤ ⑥</p> | B | <p>○各教科で生徒の実態に応じて、ICTを活用したり、対話的な学習を行ったりして、丁寧に学習指導を行うことができた。</p> <p>○教科担当と担任が連携を図ることができた。</p> <p>●基礎学力の定着と生徒がさらに興味・関心をもって行えるような授業づくりが必要である。</p> <p>◇より主体的に学びを深められるような指導の工夫をする。</p> | |

| | | | | | | |
|-------|---|--|-------|---|---|--|
| 中学部 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を伸ばし、リモート等を利用した交流を通して豊かなコミュニケーション力を育てるとともに自己理解や他者理解、社会について考えを深め、将来の夢を意識したキャリア教育の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 礼儀や規範意識を身に付けさせるために、道徳や自立活動および生徒会活動等の充実を図る。自立活動については、学年の系統を意識した指導ができるように、学部で研修する。また、職場体験活動や企業見学などの様々な交流を、自分の将来について真剣に考える機会とし、地域や保護者、聴覚障害者と連携したキャリア教育を進める。 | ①⑥⑨⑫ | B | B | <ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害のある大学生との交流、職場体験、職場体験報告会(Zoom)、合同授業(Zoom)等を通して、卒業後の生活について考えたり、自分の考えを深めたりすることができた。 ●自立活動等については、自己や他者理解に時間をかけていく必要がある。 ◇生徒の実態等を捉えて、学部内で情報交換をしながら、指導にあたっていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 学校生活や学校行事、部活動を通して心身の健康の増進を図り、将来を見据えた規範意識の向上に努め、互いの立場を尊重できる人間関係づくりを推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 思春期に起こる様々な葛藤に向き合うことで、たくましい心を育み、集団生活の中での自己有用感と仲間と協力することで得られる達成感を積み重ねられるように支援する。 | ⑦⑧⑨ | B | | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性を尊重することで、部活動や学部活動で、生徒が自分で考え、生徒同士で教え合うことができた。 ●生徒の規範意識や人間関係づくりについては、今後も継続して指導を行っていく必要がある。 ◇生徒同士の話し合いの場を多く設定し、生徒が主体的に活動できるよう工夫していく。 |
| 相談支援部 | <ul style="list-style-type: none"> 医療・教育・福祉などの関係機関と連携し、難聴児の生活に生じる困難さの実態や将来に向けての課題について協働して支援できるようにする。 各部主任や担当者で連携し、校内支援を行うようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 個々の難聴児の学習・生活場面における具体的な困難さについて担当者と共有し、難聴についての理解へとつなげるとともに、支援のための方策や普段の配慮等を伝えるようにする。 各部主事や担任、担当者で情報共有を行い、互いに支援の方策を探るとともに見通しをもった取り組みを行えるようにする。 | ③⑨⑩⑪⑫ | A | A | <ul style="list-style-type: none"> 通学区域の聴覚に障害のある児童生徒についての調査を行い、地域のニーズについて把握することができた。 ●地域の関係機関と積極的に連携していく必要がある。 ◇学校公開等学校の取り組みを積極的に情報発信していく。 ○今年度からセラピストの活用を開始し、定期的に支援の方策について情報共有することができた。 ●校内からのニーズの聞き取りや書類の形式などを整理することが必要である。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> きこえにくさについて保護者が向き合い、愛情と信頼関係に基づいて安定した親子関係を育むための支援をしている。 乳幼児一人一人のきこえや聴覚活用状況を把握し、ことばの育ちやコミュニケーション力の伸長のための支援を保護者と共に考えていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 一人一人のきこえにくさからくる困難を、保護者と具体的な場面で確認し、関わりの深い親子関係を育むことができるように支援する。保護者への情報提供の仕方を工夫し、子育てに見通しをもつことができるようにする。 相談場面の観察や家庭等での様子の聞き取りから、乳幼児の実態を共有することで、乳幼児一人一人に合わせた取り組みを保護者と共に考えたり、提案したりする。 | ③④⑩ | A | | <ul style="list-style-type: none"> 保護者支援のために、幼稚部と学習会を行った。関係職員で必要な情報について検討を行い、保護者に提供することができた。 ●保護者アンケートの結果を分析し、必要な情報を提供できるようにしていく必要がある。 ◇保護者アンケートをもとに、学習会の内容を検討していく。 ○全乳幼児に対して早期教育発達段階表または幼稚部自立活動段階表を使用し、2歳児には語彙表を使用して実態把握をし、アセスメントに基づいて教育相談の中で話すことができた。 ●保護者のニーズに応じた支援をしていく必要がある。 ◇乳幼児の実態のとらえ方と具体的な取り組みについて、家庭環境に合わせた支援を保護者と考えていく。 |

| | | | | |
|---|--|-------------------|----------|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・通級児童生徒が心身ともに豊かな成長ができ、在籍校においてよりよい学校生活を送れるように支援する。 ・児童生徒の生活上又は学習上の課題について、保護者や在籍校、通級指導教室と連携する体制を構築する。 ・通級指導教室の役割や機能についての啓発に努め、聴覚障害児の理解と支援につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心理的な安定に配慮しながら、言語理解・表出能力の向上を図るようにする。 ・児童生徒の障害認識や自己理解を高めることで自己肯定感を醸成し、学習上または生活上の困難を改善・克服しようとする意欲がもてるようにする。 ・保護者や在籍校と定期的に情報交換する機会を設け、互いに信頼関係を築きながら進められるようにする。 ・在籍校訪問、通信機器(電話・ファクシミリ・電子メール)及び連絡帳の活用、指導記録の送付を通して、通級指導の目的や支援内容の共通理解を図る。 | <p>①②③⑨ ⑩</p> | <p>B</p> | <p>○高学年以上は、自分の聞こえについて客観的な見方を含めながら、グループで話し合うことで共通認識をもちながら改善することができた。</p> <p>●ペア(グループ)学習ができるように時間割を検討する必要がある。</p> <p>○年度初め・末の面談、在籍校訪問後の情報提供をすることで、支援について共通理解をすることができた。</p> <p>○毎時間の連絡帳、在籍校訪問時の情報交換等で、聞こえや言語的な課題等について伝えたり、質問に答えたりすることで、支援について共通理解をすることができた。</p> <p>●新たに通級生が入学したり、在籍校担当者が変わったりした場合は年度初めの連絡をどのようにするか、整理する必要がある。</p> <p>◇今年度中に来年度初めの計画を立て、在籍校に連絡する。また、事務手続きの課題を洗い出し、流れを明文化しておく。</p> |
|---|--|-------------------|----------|---|

※評価基準: A:十分に達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない